

# ふくいの森林・林業基本計画(現行：R2～R6) の成果と今後の展開

福井県農林水産部  
県産材活用課・森づくり課

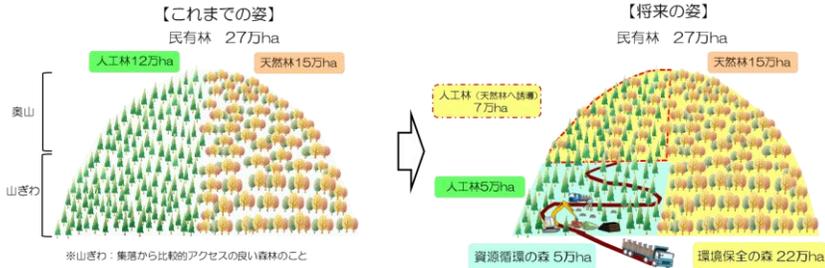
# ふくいの森林・林業基本計画の概要

- 【基本理念】** 育てる林業から、儲ける林業・稼げる林業に
- 【数値目標】** 県産材生産量  $19\text{万}\text{m}^3 \rightarrow 25\text{万}\text{m}^3$  林業生産額  $23\text{億}\text{円} \rightarrow 30\text{億}\text{円}$
- 【計画期間】** 令和2年度～令和6年度(5年間)

## 【目指すべき森林の姿】

県内の民有林を2つにゾーニングし、それぞれに応じた森林整備を推進する

- ①資源循環の森: 木材の持続的な生産 ②環境保全の森: 森林の多面的機能の発揮



## 1 森を活かすプロジェクト ～充実しつつある森林資源の積極的な利用～

**<プロジェクト目標>** (H30) (R6)  
間伐材積  $12\text{万}\text{m}^3 \rightarrow 16\text{万}\text{m}^3$  主伐材積  $7\text{万}\text{m}^3 \rightarrow 9\text{万}\text{m}^3$

- ① 間伐の加速化と主伐の促進による循環型林業経営を推進**
  - 主伐の促進による循環型林業経営と資源の有効活用を推進
  - 森林環境譲与税等の活用による市町主体の間伐を推進
  - 低コストにつながる列状間伐を拡大
  - 県産苗木の供給体制を整備
  - 低コスト造林、育林方法の確立・推進
- ② 集落単位での取組みや新たな手法の導入による施業集約化の促進**
  - 集落単位で取り組むコミュニティ林業を拡大
  - 森林所有の移転や交換による林地の集約化を推進
- ③ 林業経営の効率化に向けた生産基盤の整備**
  - 航空レーザ計測等のICT技術の活用による森林情報の高度化
  - 生産性向上のための高性能林業機械の導入等を促進
  - 木材供給拡大のための路網(林道・作業道)を計画的に整備
- ④ 原木の安定供給システムの構築**
  - 多様な需要に対応した原木の安定供給システムの構築
- ⑤ 森林経営・管理を担う人材を育成**
  - 競争力のある林業事業者を育成
  - 若者や女性が活躍できる就労環境を整備
  - ふくい林業カレッジ等による人材の確保
  - 技術力のある人材を育成
  - 地域に根差した経営意欲の高い自伐林家を育成



苗木供給体制の整備  
(コンテナ苗)



高性能林業機械の導入  
(ハーベスタ)

## 2 木を活かすプロジェクト ～原木の価値に応じた木材需要の創出・拡大～

**<プロジェクト目標>** (H30) (R6)  
県産材需要量 A材:  $5\text{万}\text{m}^3 \rightarrow 6\text{万}\text{m}^3$  B材:  $3\text{万}\text{m}^3 \rightarrow 8\text{万}\text{m}^3$  C材:  $11\text{万}\text{m}^3 \rightarrow 11\text{万}\text{m}^3$   
(※A材: 製材用の直材 B材: 合板用の小曲材 C材: バイオマス・製紙用の低質材)

- ① 木材加工流通体制の強化による県産材の利用拡大**
  - 大規模工場の誘致によるB材需要の拡大
  - 製材工場の連携による県産材製品の安定供給体制の整備
  - 内装材等付加価値製品の安定供給を通じた県産材需要の拡大
- ② 県産材の家づくりの推進**
  - 住宅の新築およびリフォームへの県産材利用の推進
  - 建築士等を対象とした研修会の開催
  - プレカット工場と連携したパネル工法での利用の推進
- ③ 公共および民間施設の木造・木質化の推進**
  - 県・市町施設、民間施設の木造・木質化、木製品の導入を推進
  - 中大規模施設の木造建築設計者の育成
- ④ 攻めの県産材の販路拡大**
  - 都市圏を中心とした県外の販路を拡大、アジア圏など海外の販路を開拓
- ⑤ 新たな分野における利用拡大**
  - 異業種企業との協働による県産材商品の開発、炭素繊維との複合化など新たな加工技術の開発
- ⑥ 木質バイオマスの利用推進**
  - 木質バイオマスボイラー等の導入による熱利用の推進、木質バイオマス発電施設への燃料の安定供給
- ⑦ みんなでつかおう「ふくいの木」運動**
  - 木づかいイベントの開催による県産材利用の意識の醸成、木づかいの機会の創出
  - 「ふくいの木使ってもらい隊」による木造・木質化の普及
  - ふくいの木の利用の情報発信



大規模加工工場

## 3 森に親しみ、森を守るプロジェクト ～森林の多様な活用と森林保全の推進～

**<プロジェクト目標>** 新たな森林活用に取り組む団体 17団体

- ① 森林の多様な活用による山村の活性化**
  - 里山を活用するふくいSatoyamaトレイルの拡充
  - 森へ誘う森林体験を県内各地に展開
  - ふくいの森林の楽しみ方や魅力を情報発信
- ② 地域資源である特産林産物のブランド力強化**
  - 県産ブランドきのこの生産販売の促進(香福茸・極上マイタケ)
  - 全国に誇れる特産林産物の生産技術を継承(くず、オウレン、研磨炭など)
  - 地域ならではの品目の振興(ササ、シキミ、クロモジ、菊炭など)
- ③ 災害等から暮らしを守る森づくりの推進**
  - 事前防災・減災対策による災害に強い森づくりを推進
  - 獣害や病虫害に強い森づくりを推進
- ④ 緑と花の県民運動を継続的に展開**
  - 全国植樹祭を契機に展開している緑と花の県民運動を推進、全国育樹祭を誘致
- ⑤ 北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた観光地周辺等の花いっぱい運動の推進**
  - 駅や観光地周辺を中心に県内全域で花いっぱい運動を拡大・強化



Satoyamaトレイル

# ふくいの森林・林業基本計画の成果と今後の展開

## 取組みの成果 (～R2)

### 【プロジェクトの目標 (H30→R6)】

- 間伐材積 12万m<sup>3</sup>→16万m<sup>3</sup> (R4実績13.5万m<sup>3</sup>)
- 主伐材積 7万m<sup>3</sup>→9万m<sup>3</sup> (R4実績11.1万m<sup>3</sup>)

利用期を迎えた森林資源を有効活用するため、施業集約化の促進、生産基盤の整備を進めてきたことにより県産材の供給拡大を図った。

### ① 間伐の加速化と主伐の促進による循環型林業経営を推進

- ・コミュニティ林業地の増加により施業を集約し間伐を推進
- ・効率的な主伐・再造林を進める「ふくい型林業経営モデル」の構築に向け、低コスト生産のための現地実証・検証等を実施
  - ⇒ 間伐材積：12.4万m<sup>3</sup> (H30) → 13.5万m<sup>3</sup> (R4)
  - ⇒ 主伐材積：6.6万m<sup>3</sup> (H30) → 11.1万m<sup>3</sup> (R4)
- ・着実な再造林に向け、年間10万本規模の苗木生産施設を新設(整備中)
- ・造林・保育作業の低コスト化に向け、低密度植栽など特定苗木の現地実証を実施(実証中)



### ② 集落単位での取組みや新たな手法の導入による施業集約化の促進

- ・県普及員と森林施業プランナーの普及活動等を通じて、地権者の間伐等の理解を深めることにより、コミュニティ林業地が増加
  - ⇒ コミュニティ林業：135集落(H30) → 260集落(R5)

### ③ 林業経営の効率化に向けた生産基盤の整備

- ・令和元年度より県全域を対象に航空レーザ計測を開始。得られたデータを森林のゾーニングや境界明確化等に活用
  - ⇒ 航空レーザ計測実施率 (R5年度)：県全域の56%
- ・高性能林業機械の導入による生産性の向上
  - ⇒ 高性能林業機械：16台(R2～R5) ・間伐生産性：5.4m<sup>3</sup>/人日(H30)→6.1m<sup>3</sup>/人日(R4)

### ④ 原木の安定供給システムの構築

- ・ふくい県産材生産拡大協議会を設立 (R2.10.22設立) し、事業者間の連携を図ることにより、原木の供給を拡大

### ⑤ 森林経営・管理を担う人材を育成

- ・ふくい林業カレッジによって即戦力となる人材を育成し、新規就業者を確保
  - ⇒ 新規就業者：115人 (R2～R5)
- ・自伐型林業学校を開校 (R5.4.18開校) し、県内での自伐型林業を展開
  - ⇒ 受講生：37名 (R6.3月現在) ・団体数：7団体37名 (R6.3月現在)

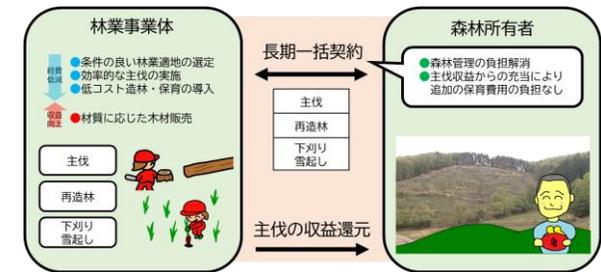
## 今後の展開 (素案)

- ◆ 効率的な主伐・再造林を進める「ふくい型林業経営モデル」の構築を進めてきたことにより、利用期を迎えた森林資源を活用した儲ける林業・稼げる林業の実現性が向上
- ◆ 加えて、自伐型林業大学校を開校し、**県内での自伐型林業を展開**したことにより、山村地域の活性化に寄与
- ◆ 引き続き、現基本理念の実現に向け、**ふくい型林業経営モデル (大きな林業) と自伐型林業 (小さな林業)** を組み合わせた『Fukui Forest Design』の更なる推進が必要

### <展開 I>

#### □ ふくい型林業経営モデル (大きな林業) の定着・拡大を図り、効率的な主伐・再造林を推進

- (1) 主伐地の集約化によりふくい型林業経営モデルを面的に展開
- (2) 必要な県産種苗の安定供給体制の構築
- (3) 新たな技術や手法を活用した林業経営の推進
- (4) 再造林・保育作業、林業DXを実行・推進できる人材の確保・育成



### <展開 II>

#### □ 山村地域の活性化に寄与する自伐型林業の着実な推進

- (1) 儲かる半林半Xのモデルづくり
- (2) 都市部からの移住、定住を促進

# ふくいの森林・林業基本計画の成果と今後の展開

## 取組みの成果（～R2）

### 【プロジェクトの目標（H30→R6）】

県産材需要量

- A材：5万m<sup>3</sup>→6万m<sup>3</sup>（R4実績6.1万m<sup>3</sup>） ■ B材：3万m<sup>3</sup>→8万m<sup>3</sup>（R4実績3.7万m<sup>3</sup>）
- C材：11万m<sup>3</sup>→11万m<sup>3</sup>（R4実績14.8万m<sup>3</sup>）

B材大型加工工場の誘致活動、住宅・非住宅分野における県産材の利用や発電・熱利用施設での木質バイオマスの利用拡大等に加え、都市圏や海外での新たな販路開拓および「ふくいの木」運動を展開することにより需要拡大を図った。

### ① 木材加工流通体制の強化による県産材の利用拡大

- ・ B材大型加工工場の誘致に向け全国の木材製品メーカー・建材商社と交渉中
- ・ ウッドショックを契機に、プレカット事業者への支援を通じて、外材から県産材利用への転換を促進  
⇒ 県産材利用への転換（R3～R5 累計）：2,241m<sup>3</sup>

### ② 県産材の家づくりの推進

- ・ 県産材を活用した新築やリフォームに対する支援を実施  
⇒ 支援件数（R2～R5 累計）：新築437件、リフォーム386件

### ③ 公共および民間施設の木造・木質化の推進

- ・ 県公共建築物の木造・木質化を進める仕組み（3者協議）の導入（R3.4.1）
- ・ 福井県経済団体連合会との県産材利用推進に関する協定を締結（R3.10.22）
- ・ 企業における県産材利用を推進する「ふくいウッドチャレンジ推進ネットワーク」を創設（R4.10.26）
- ・ 木造建築の相談・提案を行う木造設計集団「FUKUIホルツアーキテクト」を結成（R5.2.2）

### ④ 攻めの県産材の販路拡大

- ・ ふくい県産材販路拡大協議会による都市圏や海外での大規模展示会等へ出展により販売額の増加
- ・ 台湾では県内企業が支店を設置し、インドネシアでは現地法人との連携により、販路を開拓  
⇒ 県産材販売額：1.2億円（R1）→1.8億円（R5）

### ⑤ 新たな分野における利用拡大

- ・ 異業種企業と協働し、木製スピーカー等の新たな商品を開発  
⇒ 開発商品数（R2～R4 累計）：9品

### ⑥ 木質バイオマスの利用推進

- ・ 木質バイオマス発電施設やあわら市・坂井市内の温泉施設での熱利用の推進によりC材需要が拡大  
⇒ 利用量：68,200m<sup>3</sup>（H30）→73,436m<sup>3</sup>（R5）

### ⑦ みんなでつかおう「ふくいの木」運動

- ・ フクモクフェス、木づかい塾、木づかい体験等の開催により県産材利用への意識を醸成  
⇒ 参加者：2,500人（H30）→14,076人（R5）



## 今後の展開（素案）

- ◆ 「儲ける林業・稼げる林業」の実現には、県内に **B材需要の確保（工場誘致が必要）** と A材の付加価値の高い製品生産・需要開拓が必要
- ◆ また、工場誘致に不可欠となる丸太の安定供給と今後増加が見込まれる木質バイオマス利用に対応するためには、**原木の需給調整機能を備えた流通体制の整備**が必要
- ◆ 引き続き、県内での需要拡大を進めるため、**ふくいの木運動の継続**が必要

### <展開Ⅰ>

#### □ B材工場の誘致等による県産材需要の拡大

- (1) B材工場（合板・LVL工場等）の誘致
- (2) 小規模製材工場の連携による付加価値製品の生産
- (3) 意欲的な製材事業者の連携等による都市圏や海外での販路の開拓
- (4) 公共施設、住宅・非住宅での県産材利用の推進
- (5) 製材業の新規就業者の育成・確保



### <展開Ⅱ>

#### □ 需要に的確に対応できる合理的な流通体制の構築

- (1) 県産材の需給調整を統括する組織の創設
- (2) 木材市場（県内4か所）の連携等による原木流通の合理化

### <展開Ⅲ>

#### □ 県産材利用の理解を深めるふくいの木運動の継続

- (1) フクモクフェスの継続開催（主導を県から企業へ）
- (2) 企業を対象とした勉強会等の開催

# ふくいの森林・林業基本計画の成果と今後の展開

## 取組みの成果（～R2）

### 【プロジェクトの目標（R6）】

新たに森林活動に取り組む団体：17団体（R5 13団体）

トレイル等の森林体験による県内外からの誘客促進や幸福茸をはじめとする特用林産物の販売促進等、森林の多様な活用を通じた山村地域の活性化を図るとともに、山地災害危険地区の抽出・把握や既存治山施設の機能強化により暮らしを守る森づくりを推進した。

#### ① 森林の多様な活用による山村の活性化

- ・トレイル等の森林体験を広げ、情報発信等により国内外からの誘客を促進  
⇒トレイル参加者（R2～R5 累計）：6,923人

#### ② 地域資源である特用林産物のブランド力強化

- ・原木の確保や新たな生産者の育成等により、幸福茸の生産販売を促進  
⇒・生産者数：7名（R2）→13名（R5）  
・販売額：8億円（H30）→8.8億円（R5）
- ・林業遺産（越前オウレン、研磨炭、熊川葛）の収入の向上や経営安定化に対する支援

#### ③ 災害等から暮らしを守る森づくりの推進

- ・航空レーザ計測による山地災害の危険性の高い場所の抽出・把握
- ・既設治山施設の機能の維持増進を図るため点検・補修・機能強化を実施  
⇒点検・診断（R2～R5累計）：75箇所  
⇒補修・機能強化（～R5累計）：41箇所
- ・列状間伐等により広葉樹の侵入を促し多様性のある森林への誘導  
⇒針広混交林化（～R5累計）：2,020ha

#### ④ 緑と花の県民運動を永続的に展開

- ・緑と花の県民運動の推進  
⇒県民運動参加者：60,000人（H30）→69,700人（R5）
- ・全国育樹祭 令和6年10月19日、20日開催

#### ⑤ 北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた観光地周辺等の花いっぱい運動の推進

- ・観光の拠点となる駅や観光地周辺において花の景観づくり研修を実施  
⇒開催数（R2～R5累計）：36回



## 今後の展開（素案）

- ◆ 近年の異常気象により山地災害が多発。**山地防災力の強化**が必要
- ◆ 山村地域の活性化の実現には、**森林の多様な活用や特用林産物等の地域資源の活用等**が必要
- ◆ 森林の大切さを後世に伝えるためには、**緑と花の県民運動の永続的な展開**が必要

### <展開Ⅰ>

#### □ 山地防災力を強化した治山事業等の推進

- (1) 効率的な森林土木事業に向けたICT技術の活用
- (2) 大規模災害時の対応に向けた体制づくり
- (3) 関係機関と連携した流域治水対策の推進

### <展開Ⅱ>

#### □ 公益的機能が発揮できる森林づくりの推進

- (1) 天然更新の確保による多様な森づくりを推進
- (2) 獣害や病虫害に強い森づくりを強化

### <展開Ⅲ>

#### □ 特用林産物の供給強化および地域資源を活用した新たな森林サービスの創出

- (1) 新規生産者の開拓と栽培技術・生産量の向上
- (2) 林業遺産や地域特産品の振興
- (3) 山林を利用したアクティビティの開催、樹木アロマや森林体験活動等の森林資源を活用したビジネスを創出

### <展開Ⅳ>

#### □ 全国育樹祭の開催理念を承継した緑と花の県民運動の永続的な展開

- (1) 緑と花の県民運動の推進に加え「木を伐って使い、植え育てる」機運を社会全体に浸透
- (2) ふくいの木の良さを伝え木と触れ合える機会を創出

# 目標と実績

基本計画の項目		単位	実績						目標
			H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
			(基準)	R2.3月策定	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
数値目標	県産材生産量	万m <sup>3</sup> /年	19	20.8	22.5	22.8	24.6	調査中	25
	林業生産額	億円/年	23	24	25	27	29	調査中	30
PO ジェイ 外 目標	間伐材積	万m <sup>3</sup> /年	12	14.2	13.8	14.1	13.5	調査中	16
	主伐材積	万m <sup>3</sup> /年	7	6.6	8.7	8.7	11.1	調査中	9
	県産材需要量A材	万m <sup>3</sup> /年	5	4.6	5.6	5.7	6.1	調査中	6
	県産材需要量B材	万m <sup>3</sup> /年	3	3.6	3.5	3.3	3.7	調査中	8
	県産材需要量C材	万m <sup>3</sup> /年	11	12.6	13.4	13.7	14.8	調査中	11
	新たな森林活用に取り組む団体	団体(累計)	—	—	6	8	10	13	17
個別目標	木材生産額	億円/年	15	16	17	19	21	調査中	21
	特用林産生産額	億円/年	8	8	8	8	8	8.8	9
	間伐生産性	m <sup>3</sup> /人日	5.4	5.5	5.7	5.8	6.1	調査中	7
	コミュニティ林業	箇所(累計)	135	155	185	215	241	260	300
	高性能林業機械の新たな導入台数	台(累計)	—	5	11	12	16	16	15
	新規林業従事者数	人(累計)	—	34	27	52	78	115	100
	県産材製品の県外・海外への販売額	億円/年	1.2	1.2	1.3	1.5	1.7	1.8	2
	みんなでつかおう「ふくいの木」運動参加者	人/年	2,500	1,155	2,468	2,849	3,229	14,076	33,000
	針広混交林化	ha(累計)	807	960	1,196	1,534	1,802	2,020	2,300
	緑と花の県民運動参加者	人/年	60,000	60,000	24,000	29,000	49,000	69,700	95,000